

我が師の恩

佐藤泰舜禅師と中西光夫先生

草れづれつ和令

外交評論家・元外交官

金子熊夫

kaneko@eeecom.org



私が60年来住んでいる東京都世田谷区の下北沢は近くに大学、学校や小劇場が多数あり、若者が多い。先日、散歩途中に出会った女子中学生たちに「卒業式では『仰げば尊し我が師の恩...』を歌

うのかと聞いたところ、「そんな歌は知らない。『わがし』って和菓子のこと？」と聞き返されて、あせんとした。嘆かわしい話だが、そういう時代になってしまったということだろう。(昭和の半ば頃までは「三戸下がつて師の影を踏まず」という言葉もあったが、今は死語だろう)

この寺の先代住職は、佐藤泰舜(たいしゅん、1890~1975年)という非常に偉い禅師で、当時地元では「方丈様」と呼び、生き仏のようにならざるを得ない。お盆などの法会の際のお説教は、哲学的な深い内容なのに、かんで含めるような話し方で、子供にも理解しやすかった。私の実家は貧しかったが檀家だったので、小学

校低学年の頃からよく父の名代として法会に参列し、大人たちに交じって法話に耳を傾け、感銘を受けたものだ。成人して、外交官試験に合格し外務省に入った時も、非常に喜んでくださり、上京の直前にお招きいただき、丁寧なおもてなしにあずかった。その後、海外勤務から帰朝するたびに「あいさつに参上すると、その都度こちらが恐縮するほど長時間、私の話を楽しそうに聞いてくださった。

とくに、1960年代半ば、ベトナム戦争の最盛期に、旧南ベトナムの首都サイゴン(現ホーチ



佐藤泰舜禅師

ミン市の日本大使館に勤務していた時、たまたま出張先の中部の古都フエで、あの歴史的な「テト攻勢」(68年1~2月、共産軍による一斉蜂起)に巻き込まれ、危うく殉職しかけたことがあったが、その時の体験談は、身を乗り出して熱心に聞いてくださった。今思うと、国際政治情勢についても強い関心を持ち、最新の情報を得て的確に世界情勢を把握しておられたようだった。

しかし当時は、あまりにも近くでその警咳(けいがい)に接していたせいか、それほど偉いお坊

(2面に続く)

令和つれづれ草

金子熊夫

実は、その輝かしい経歴については比較的最近になって知り得たのだが、概略を記せば次の通り。

◇ 1890年東郷村（現新城市）生まれ。10歳で出家。14歳で勝榮寺で得度。24歳で勝榮寺住職。31歳で東京帝国大文学部に入學、インド哲学を専攻。34歳で卒業。卒論のテーマは「支那仏教思想の発達」。翌年35歳で駒沢大と東洋大教授に就任。その後法隆寺、高野山、比叡山に留学後、中国（広東、福建省）、さらにドイツ、フランス、イギリスに留学して仏教研究に専念。帰国後、京城（現ソウル）帝大教授を長年務め、戦後日本に引き揚げ、勝榮寺住職に復帰。その後愛知学院大教授、愛知大教授や妙厳寺立豊川高校校長なども務める。1959年70歳で永平寺監院に就任。66年に永平寺副貫首、68年に79歳で貫首（74世）。73年に83歳で全日本仏教会会長に就任。75年に逝去。享年86。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

我が師の恩

佐藤泰舜禅師と中西光夫先生

私の人生で最も多感な中学生時代に教師と生徒の関係で接したのが始まりで、以後、おどろくべきまでに半世紀余にわたって大変お世話になりました。人格形成上大きな影響を受けた。世の中に立派な先生や偉い先生は数多いが、これほど多くの人々から尊敬され、深く愛された人格者はまれではないかと思っ。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

独自の校舎もなく、真夏の炎天下、全校生徒総出で近くの豊川（よがわ）の河原から「べり石」を運んで、校舎建設工事をめぐるだけである。それにつけても、「生前あれほどかわいがっていただいたの老師に半世紀後、異郷の地で突然再会できた喜びをかみしめ、その夜はホテルの部屋で独酌し、静かに黙想にふけつたことをつい昨日のことのように記憶している。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

こうして過酷な個人的道に進ませるきっかけとなったと言え。その意や市民レベルの相互訪問などの交流が始まった。すべて中西先生のリーダーシップによる。交流は以後約30年間も続いたが、その後の日韓関係悪化のため、中断されたようだ。晩年の先生はさぞ心残りだっただろう。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。

◇ 私が見たのは、この20年ほど前、韓国の友人（元駐日大使）に招かれて訪韓した折に、かつて5〜6世紀、百濟の首都があった扶余（大田市の西方）を訪問した時である。夕方、町はずれの小さな湖を一人で散策していたら、湖畔に「日中不戦」と彫られた大きな石碑がひっそり建っているのを見つけた。不思議に思っ、近づいてみると、「なんと」建立者「佐藤泰舜」とはつきり刻まれているではないか。



中西先生（左）と金在徳氏（右）友鹿洞で

元外交官、元東海大
学教授（国際政治
学）。新城市出身、
83歳。